

行幸会

行幸会とは、奈良時代中期に始まった放生会と並ぶ宇佐神宮二大特殊神事の一つである。6年に一度、八幡大神の御神徳の御発揚を促すため、御神体である薦枕（薦神社の三角池の薦で作った枕）を新たに作り替えて、神輿に乗せ、八幡大神の御霊行の地である八ヶ社（田笛社・鷹居社・郡瀬社・泉社・乙咩社・大根川社・妻垣社・小山田社）を巡行して、本殿に安置され、古い御神体は、国東地域を經由して八幡奈多宮へと向かう神事である。しかしこの神事は莫大な費用がかかり、神事を執り行う事が容易ではなかった為、しばしば中断すること多々あり、元和2年（1616）、細川忠興によって再興されて以降絶えている。当社は7番目の巡幸となり、2泊3日滞在し、初日に下宮、翌日、上宮の祭事が盛大に執り行われていたようである。また、元和の神事では、本殿より白い湯気が三本立ち上がったという不思議な出来事があった。

祭典行事

歳旦祭・大祈願祭（1月1日） 今年一年の国の安寧・家内安全・交通安全などを祈願するお祭り

祈年祭（3月23日） 今年の五穀豊穰・産業発展を祈願するお祭り

元宮祭・貴船社祭（4月28日） 足一騰宮比咩大神のお祭り・摂社貴船社のお祭り

例大祭・神幸祭（10月第4土・日曜日）

一年に一度、神社で一番重要なお祭り・大神様を神輿にお遷して氏子地域を親しくお渡りいただくお祭り

新嘗祭（12月23日） 今年の新穀・秋の実りを感謝するお祭り

大祓式・除夜祭（12月31日）

一年の罪・穢れを祓い落とし、今年一年の感謝を込め来年も良き年であることを祈念するお祭り

月次祭（毎月1日） 毎月の恒例祭